

コロナ禍で困窮する学生に食料品などを配る第4回「フードプロジェクト」：学生食料支援（主催・実行委員会）が19日、鳥取大学のある鳥取市湖山町で開かれ、45人の学生が利用しました。

コメ3ポ、カップラーメン、お菓子類、マスコア牧を袋詰めセツ

トにして配りました。大根、シロネギ、イモ、タマネギ、カイワレも用意しました。

「母子家庭で母親がコロナで失業。バイトはシフトに入れずに辞めて、今は給付制奨学金で家賃と食費をまかっています」（2年生女子）、「バイトがなくて収入は給付制奨学金だけです。食費は2千円で1週間分を買います」（1年生女子）

食料支援に学生切々

「居酒屋と学童のバイト、奨学金で学費も家賃も払っています。仕事はなくて、親が困窮していて逆に頼られています」（1年生女子）、「食費は1日200〜300円」（6年生女子）などの声が寄せられました。

奈良

日本民主青年同盟奈良県委員会は19日、天

理民商の協力のもと同駐車場（天理市）で、食料などを無償で配布する学生応援企画「もってけ市場」を初めて開催。開始前から学生たちが自転車や原付バイクなどで続々と集まりました。

一人暮らしの大学1年生は「お米やリンゴなどいろんな食料が無料なんて、すごいですね」と感嘆の声。学生生活については「（コロナの影響で）入学式がなく、友達がいなくて、対面授業も少ない」と話していました。

持参したカバンや袋に食料をいっぱい詰め、その場から同じクラブの仲間と電話をし、連絡を受けた学生たちが集まってくる姿もありました。農産物も協力し、新米や白菜、缶詰、カップ麺など用意した物資が1時間半でほとんどなくなりました。

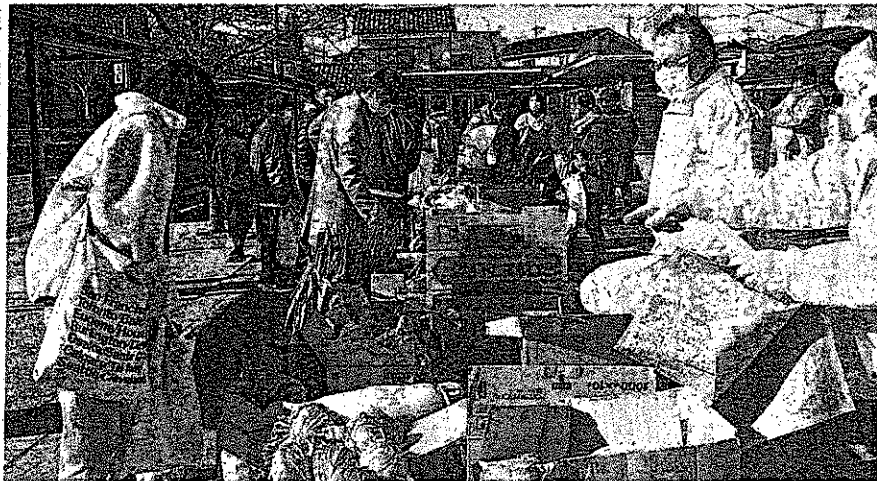
大学生や同市の新日本婦人の会員らがボランティアスタッフを務め、「もうええか」「これも持っていき」と親しく声をかけながら学生らを支援。民青のアンケートでは「食費を削っている」の回答が圧倒的に多く、次回の取り組みに向けてツイッター登録を呼びかけました。

困窮 食費犠牲に

母子家庭で母親が失業

食費2000円で1週間分

バイト代10万→0円に



食材を選ぶ大学生ら19日、群馬県高崎市

群馬

コロナ禍で、アルバイト収入や仕送りが減り、厳しい生活を送る学生たちに食料を支援しようと17日、群馬県高崎市の高崎経済大学近くで「まんぷくプロジェクト@高崎」が取り組まれました。日本民主青年同盟群馬県委員会が主催し、地元

の日本共産党などが協力しました。

1時間半で70人の学生が来場し、米、トマトや大根、白菜などの野菜、冷凍のマグロやサバ、缶詰などの食料品のほか、ティッシュペーパーや洗剤などの日用品を持ち帰りまし

た。

「高くて買えない野菜や魚、調味料までもらえた。食べ方も教えてもらえて本当にありがたい」と話しました。

主催した大学4年生の民青同盟員は「来場者の話は予想以上の困窮ぶり。これからも県内各地で取り組むが、共助だけでは追いつかない。公助が必要だ」と訴えました。

12/20 五旗